

はじめに



東京都は、「東京都平和の日条例」で、3月10日を「東京都平和の日」と定め、平和の意義を確認するとともに、平和意識の高揚を図るため、記念行事を実施しております。

令和元年度は、3月10日、東京都庁において「第30回東京都平和の日記念式典」を開催の予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、式典、式典に引き続く「記念公演」及び「東京空襲資料展」を中止いたしました。

3月10日当日には、式典で御挨拶いただく予定をしておりました皆様のメッセージをホームページに掲載させていただきました。また、東京大空襲をはじめ戦災で亡くなられた方々を追悼し、世界の恒久平和を願って黙とうを行いました。

本報告書は、今回の東京都平和の日記念行事についてまとめたものであり、平和の大切さを確認していただくための一助となれば幸いです。

結びになりますが、今回の東京都平和の日記念行事の実施にあたり、御協力をいただいた皆様に心から御礼を申し上げます。

令和2年3月
東京都



目次

はじめに	1
第一章／東京都平和の日メッセージ	3
東京都知事 小池 百合子	4
東京都議会議長 石川 良一	5
在日外交団代表	6
駐日コートジボワール共和国特命全権大使 ジェローム・クロール・ウェア閣下	6
東京空襲被災者代表 横山 譲二様	10
第二章／普及啓発	13
告知	14
第三章／関連事業	17
東京空襲犠牲者を追悼し平和を祈念する碑	18
「東京空襲犠牲者を追悼し平和を祈念する碑」花壇デザイン画募集	20
東京空襲資料展	25
東京空襲資料展 チラシ	26
東京空襲写真パネル展示	28
第四章／資料	31
東京都平和の日条例	32
東京都民平和アピール	33



第一章

東京都平和の日メッセージ



東京都平和の日メッセージ



東京都知事

小池 百合子

東京都平和の日にあたりまして、ご挨拶申し上げます。

先の大戦で、東京は度重なる空襲により甚大な被害を受けました。なかでも、75年前の3月10日の大空襲は、下町一帯を焦土と化し、一夜にして10万人ともいわれる尊い命が奪われました。

家族と引き裂かれ、幼いながらも懸命に生き抜かれた皆様の御労苦は、想像するにあまりあるものがございます。

当時の悲惨な光景と、家族や友人を失った御心痛は、今なお忘れ難いものとお察し申し上げます。

犠牲となられた方々の御無念と御遺族の皆様の深い悲しみに思いを致しますと、痛惜の念を禁じ得ません。

社会の大半が戦争を知らない世代となり、戦争の記憶の風化が懸念されています。私たちは、今享受する平和と繁栄が、多くの尊い犠牲と、先人たちの懸命の努力の上に築かれたものであることを決して忘れず、戦争の悲惨な記憶、史実を次の世代に語り継ぎ、平和の大切さを伝えていかなければなりません。

東京都では、平和の意義を確認し、戦争の惨禍を再び繰り返さないことを誓い、3月10日を「東京都平和の日」と決めました。毎年、この式典をはじめ、関連行事を実施しております。

都立横網町公園内には、「東京空襲犠牲者を追悼し平和を祈念する碑」を建設し、内部には「東京空襲犠牲者名簿」を納めています。

本年は、新たに126名の方々のお名前を追加し、合計81,273名の方々が掲載されております。

世界は今なお、地域紛争やテロ行為が絶えず、飢餓や貧困もまた人々を苦しめています。戦争の惨禍を経験した東京こそが、世界の都市と手を携え、寛容と協調の精神で相互理解を深め、世界平和を追求するべきであります。

今年はいよいよ、東京でオリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。この平和の祭典を皆様とともに成功させ、世界平和に貢献してまいります。そして、希望にあふれた平和国家日本の首都として、東京をさらに発展させていくことをお誓い申し上げます。

結びに、犠牲となられた方々の御冥福と御遺族の皆様の御健勝、御多幸を心からお祈り申し上げ、私の挨拶といたします。

東京都平和の日メッセージ



東京都議会議長
石川 良一

東京都平和の日にあたりまして御挨拶申し上げます。

先の大戦が終わり、早や75年の歳月が過ぎ去ろうとしております。

国難に殉じ、数多くの尊い命が失われましたことは、私たち日本国民にとって、永遠に忘れることのできない深い悲しみであります。

米軍機による、初めての空襲は、昭和17年4月18日でありました。

以来、東京は度重なる空襲を受け、昭和20年3月10日の大空襲では、下町を中心とした地域が一夜にして焦土と化し、多くの都民が犠牲となりました。

犠牲になられた方々の御無念と、最愛の肉親を失われた御遺族の深い悲しみに思いをいたすと、誠に痛惜の念に堪えません。

今日、私たちが享受する平和と繁栄は、こうした重く尊い犠牲の上に築かれたものであります。

戦争の惨禍を二度と繰り返さぬよう、私たちは改めて、過去における戦争の悲惨さ、愚かさを胸に刻み、この記憶を風化させることなく、戦争を知らない若い世代に語り継いでいかなければなりません。

折しも、今年は、オリンピック・パラリンピック競技大会が東京で開催されます。

この大会はスポーツの祭典であると同時に、平和の祭典でもあります。

大会を機に、世界中の人々が、国籍や人種、文化、宗教などの様々な違いを乗り越えて、国際的な相互理解や友好関係を深めることで、世界平和の礎としていかなければなりません。

東京都議会は、全ての人々が心豊かに暮らせる平和な社会を構築することが、犠牲となられた方々に対する私たちの責務であることを深く胸に刻み、今後とも世界の恒久平和の実現に全力を尽くしてまいります。

結びに、戦災で犠牲となられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、皆様の御健勝・御多幸を心から祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

東京都平和の日メッセージ



在日外交団代表
駐日コートジボワール共和国特命全権大使
ジェローム・クロー・ウェア閣下

小池百合子東京都知事
各国の大使閣下および外交団の皆様
東京都議会議員
市区町村長
東京都民の皆様

はじめに、小池百合子東京都知事に私から心から感謝の意を表したいと思います。

小池都知事は、私、そして私のみならず祖国コートジボワールと、東京都平和の日の記念式典とのご縁を結んでくださいました。

この機会に、コートジボワール政府および国民を代表して、そして私自身といたしましても、親愛なる日本の皆様との連帯を深め、ご遺族の皆様方への深い哀悼の意を表したいと思います。

東京大空襲、広島・長崎への原爆投下といった第二次世界大戦の数々の悲劇を経ても、なぜ私たち人間は未だ兵器を作り続けているのでしょうか。エチオピアのアディスアベバで本年2月に開かれた、第33回アフリカ連合(AU)首脳会議において宣言されたように、人類はこれらの悲劇から教訓を得て、「兵器を廃止する」べきではないでしょうか。

事実、第二次世界大戦中の東京大空襲、広島・長崎への原爆投下から75年が経ち、兵器による争いを防ぎ、世界に新たなる悲劇をもたらさないことを目的に国際連合が設立されてからも、残念ながら一部の国々では未だ戦争による犠牲者が生まれ続けています。

このような悲劇にもかかわらず、国を導くリーダーたちの行動はまったく変わっていないようです。1976年6月30日、コートジボワールのアビジャンで開かれた国際連合経済社会理事会における、フェリックス・ウフェ=ボワニ コートジボワール初代大統領の演説は、未だに確かなものとして受け継がれています。ウフェ=ボワニ大統領は、こう述べました。「指導者たちが表面的な政策の議論に興じるのではなく、彼らが真に平和を追い求めない限り、何も

東京都平和の日メッセージ



変わらないだろう。平和の追求が彼らの関心の対象となり、それが第二の天性となった時こそ、全てが変わるだろう」。そして、こう締めくくりました。「なぜなら、平和とはただの空虚な言葉ではなく、行動そのものであるからだ」。

私たちが追悼している今日というこの日は、これまでの悲劇にもかかわらず、いかに日本人が平和を大切にしているかを表しています。すなわち、この平和というものは、既に日本人の第二の天性となっているのです。

この平和追求の精神のもと、コートジボワールは、2018年から2019年まで国連安全保障理事会非常任理事国として、また、2018年12月の理事会議長国として、平和を推進する立場と決議を守り、支持してきました。

コートジボワールは常に、紛争の解決策として対話を奨めてきました。このことについて、コートジボワールのマルセル・アモン＝タノー外務大臣は次のように述べています。「兵器の完全撤廃がなされるまで、平和は実現されないだろう。まるで絵空事を言っているように聞こえるかもしれないが、各国が軍拡競争をやめれば、これは実現可能である」。

最後に、兵器の撤廃なしには世界における集団安全保障の普及は実現しえないと私は信じています。

だからこそ、本日私たちが追悼するこの日のような悲劇が二度と起こらないよう、兵器の拡散防止及び禁止、そして平和追求について考えることこそ国家にとって何よりも必要なのではないのでしょうか。

以上、私からのご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



Message for Tokyo Metropolitan Peace Day

Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary of the Republic of Côte d'Ivoire

H.E. Mr. Jérôme Klôh WEYA

- Ms. Yuriko KOIKE, Governor of Tokyo,
- Excellencies Ambassadors and Members of the Diplomatic Corps,
- Members of the Tokyo Metropolitan Assembly,
- Mayors of Cities and Municipalities,
- Citizens of Tokyo,
- Honorable Guests,
- Ladies and Gentlemen,

First of all, I would like to express my sincere gratitude to Ms. Yuriko KOIKE, Governor of Tokyo.

Governor KOIKE has kindly associated me and, through me, my country, Côte d'Ivoire, with this Tokyo Metropolitan Peace Day Memorial Ceremony.

I take this opportunity to extend, on behalf of the Government and the People of Côte d'Ivoire, as well as on my own behalf, my solidarity with the Friendly People of Japan, and to reiterate my deepest sympathy to the families of the victims.

After the tragedies of the World War II, with the bombings of Tokyo, Hiroshima and Nagasaki, we have been wondering why do men continue to make weapons? Should not men draw lessons from these tragedies to "abolish the weapons", as the African Union declared at the 33rd Summit of the Heads of State and Government held in last February 2020 in Addis Ababa, Ethiopia?

In fact, 75 years after the bombings of Tokyo, Hiroshima and Nagasaki during the World War II, since the establishment of the United Nations whose objective was to prevent the conflicts with the weapons and to protect the World against the new tragedies, unfortunately, Wars continue to make victims in certain parts of the World.

Despite these tragedies, nothing has changed in Leaders' behaviour. So, what Félix HOUPHOUET BOIGNY, the First President of Côte d'Ivoire pronounced in his speech at the Economic and Social Council of the United Nations on June 30th, 1976 in Abidjan, Côte d'Ivoire, is still valid. President HOUPHOUET BOIGNY told that : « **Nothing will change as long as the Leaders have not made the search for peace something other than the appearance of their policies. Everything will change when the search for peace will become the essential object of their concerns and their second nature. Because, concluded President HOUPHOUET BOIGNY, Peace is not an empty word, it is a behaviour** ». End of quote.

The day we are commemorating shows how much the Japanese people, despite these tragedies, gives the priority to peace ; This peace has become the second nature for them.

In this vein of search for peace, Côte d'Ivoire has defended and supported positions as well as resolutions which promote peace during its mandate as a non-permanent member of the United Nations Security Council from 2018 to 2019 and also during its presidency of the Council in December 2018.

Indeed, Côte d'Ivoire always encourages Dialogue for the resolution of conflicts. In this regard, the Minister of Foreign Affairs of Côte d'Ivoire, H.E. Mr. Marcel AMON-TANOH said that :

« **Until the ban on arms is totally effective, peace will not be possible. That seems an utopia, but it is realizable, if countries stop the arms race** ».

Message for Tokyo Metropolitan Peace Day



In the end, I believe that the promotion of collective security and peace in the world will not be possible without the abolition of weapons.

That's why the issues of non-proliferation and the prohibition of weapons, as well as the issue of peacekeeping must be absolutely necessary for countries, so that the tragedies such as one we are commemorating today, will not be no longer occurred.

Thank you for your attention.

東京都平和の日メッセージ



東京空襲被災者代表
横山 譲二様

私は、昭和2年生まれで当時17歳でした。学徒勤労動員で横浜の製鉄会社に勤めておりました。

3月10日は、工場から杉並区の家に戻り夕食を済ませ、床に就いてすぐ空襲警報のサイレンで起こされました。身支度をして外に出ると、東の空はB29爆撃機が落とした照明弾で昼のように明るく、その下の町は真っ赤に燃えていました。それに対し高射砲で撃ち、戦闘機も果敢に挑むのですが、爆撃機の数遙かに多く、なすがままに焼かれていました。その情景は仕掛け花火そっくりでしたので、今も仕掛け花火を見ると爆撃を思い出して顔をそむけてしまいます。

翌朝工場に行くと、本所区に住む級友は欠勤でした。二日経って課長さんに呼ばれ、その級友の消息を調べに行くよう言われましたので、同じ課の友人二人と出発しました。電車は神田までで、その先は一面の焼け野原、秋葉原の貨物駅は未だ燃えていました。両国橋の上から大勢の人が下を覗いていました。火に追われて川に入り水死した人々でした。橋を渡ると状況は一変し、黒こげの焼死体が至る所に転がっていて、その親族らしい人々が、被せてある焼けトタンを一枚一枚めくって探していました。それを見ていたら思わず涙が出そうになりましたが、当時は男子たる者女々しく涙を流すなど教えられていましたので、ぐっと堪え先を急ぎました。緑町辺りの歩道に作られた防空壕の前で人だかりしていました。覗き込むと防空頭巾を被った人が背中を向けて死んでいました。鳶口を持った人がその先でつつくと、防空頭巾も着物も灰になっていたのかぼらりと落ち、赤ん坊を抱いているのが見えました。我が子を必死に守ろうとして蒸し焼きにされた母親を見たとき、堪えていた涙がどっと溢れ、辺りが見えなくなりました。ややあって気を取り直し級友の家に急いだのですが、級友も、同じ家に下宿していたもう一人の級友の姿も見当たらず、焼け跡を整理していた隣の方の話では「防空壕を直撃され、家族は即死され今もそのまま。若い一人は怪我をし、もう一人が背負って川の方に避難するのを見ましたが、二日経っても何の消息も無いので亡くなられたのでは」とのこと。それ以上探す術も無く引き上げましたが、今も申し訳ないと思っています。

東京への大空襲は何回もあり、4月13日には新宿等が焼かれ、日本の戦闘機が体当たりし、B29が火達磨になって頭上を旋回した時には生きた心地がしませんでした。5月25日には京王電車の車庫が狙われ、私の家の二軒先まで焼夷弾が投下されました。B29の爆音に続き雷雨の何倍もするザーという焼夷弾の落下音の後、一斉に火を吹きました。しかし郊外なので庭という空間があり、必死に水を掛けて何とか延焼をくい止めましたが、家を焼かれた方、家族を失った方、亡くなられた方は無念だったことでしょう。

悪夢のようなあの日から75年経ちました。今年は嬉しいことに、平和の祭典であるオリンピックとパラリンピックが東京を中心にして開催されます。世界平和実現のため、その成功に協力しようではありませんか。



東京都のホームページ

<ul style="list-style-type: none"> 都の文化事業について知りたい ヘブンアーティスト Tokyo Tokyo FESTIVAL 主な開催プログラム 文化事業の実施結果 東京都文化振興部Instagram パリ東京文化タンアム 都立文化施設について知りたい 都立の美術館・博物館・ホール一覧 指定管理者制度 資料収蔵委員会 文化活動への支援について知りたい アーツカウンシル東京による助成制度 文化庁などによる助成制度 東京舞台芸術活動支援センター（水天宮ビッド） Tokyo Tokyo FESTIVAL助成 都の文化政策について知りたい 東京芸術文化評議会について 評議会の開催状況について 条例等 都の方針・取組 過去の有識者会議 東京都平和の日関連事業 都の花・都の木・都民の島について 東京都歌・市歌 「都民の日」について 旧小笠原邸 野外彫刻 歴史と文化の散歩道 東京都名誉都民選考委員会開催状況 東京都ホール・劇場等 ポータルサイト 	<h3>東京都平和の日関連事業</h3> <p style="text-align: right;">更新日：令和2年（2020）3月10日</p> <h4>東京都平和の日関連事業について</h4> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 「第30回東京都平和の日記念式典」の中止について PDF [95KB] [E] ➤ 「第30回東京都平和の日記念式典」登壇予定者メッセージ [F] <p>3月10日は「東京都平和の日」です。</p> <h4>東京都平和の日とは</h4> <p>昭和20(1945)年、3月10日未明の大空襲により東京では一夜にして多くの尊い命が失われ、いたるところ焼け野原と化しました。東京都は、平成2年7月、平和国家日本の首都として、戦争の惨禍を再び繰り返さないことを誓い、「東京都平和の日条例」を制定しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 「東京都平和の日条例」はこちら PDF [83KB] [E] <h4>東京都平和の日記念行事</h4> <p>東京都では、「東京都平和の日条例」に基づき3月10日を「東京都平和の日」と定め、東京空襲で犠牲となられた方々を追悼するとともに、平和意義を確認し、平和の意識の高揚を図るため、東京都平和の日記念式典及び東京空襲資料展を実施しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 東京都平和の日記念行事報告書 ➤ 第30回東京都平和の日記念式典参加者募集及び関連事業について <h4>東京都平和の日記念行事企画検討委員会</h4> <p>本記念行事の実施に当たり、基本的事項について意見を求め、記念行事を円滑に運営するため、東京都平和の日記念行事企画検討委員会を設置しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 東京都平和の日企画検討委員会はこちら <h4>東京空襲犠牲者を追悼し平和を祈念する碑</h4> <p>本祈念碑は、東京空襲の史実を風化させることなく、今日の平和と繁栄が尊い犠牲の上に築き上げられていることを次代に語り継ぎ、平和が永く続くことを祈念するため、平成13年に東京都が設置しました。祈念碑内部には、東京空襲で犠牲となられた方々の名簿を納め、祈念碑上部は、生命の象徴である花々を植えた花壇となっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 東京空襲犠牲者を追悼し平和を祈念する碑（概要） PDF [2MB] [E] ➤ 東京空襲犠牲者名簿について
--	--

https://www.seikatubunka.metro.tokyo.lg.jp/bunka/bunka_seisaku/0000000632.html

